

# 見学場所について

## ○ 旧東光寺跡

臨濟宗。萊福山と号する。田村の妙楽寺の末寺だった。開山は欣向(慶長10年没)と伝えられる。本尊は薬子如来(現在は妙楽寺に安置)、境内には明王権現社・稻荷社・観音堂などがあつた。

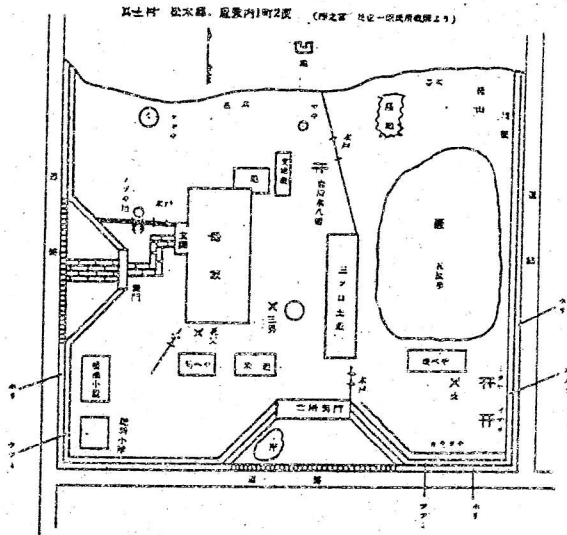
明治初年に、妙楽寺に合併廃寺となる。明治六年(1873)に、戸長松木長右衛門の手により東光寺本堂を使い有章館という小学校がおかれた。この有章館は明治10年まで同地にあり、後に四之宮村大会原に校舎を移築し、四之宮小学校と改称された。(現大野小学校) なお東光寺跡には現在、大野公民館が建てられ、「東光寺跡」の碑がある。

## ○ 真土神社

新土村には、大新土の鎮守として白山神社(東光寺持・神体円石)、古新土の鎮守として諏訪神社(円隆寺持・神体木像)の2社があつた。明治初年、村名を真土と改めた際に、諏訪神社を白山神社に合祀し、白山神社を真土神社と改称した。この合祀のときに活躍したのが松木長右衛門だといわれている。

## ○ 松木邸と松木堂

松木家は代々新土村の名主をつとめた家で、長右衛門で13代目であるという。長右衛門は自己の所有する田畑山林10町歩と質地30町歩を持っていた。宅地は1町2反歩、周囲に巾4尺ほどの堀をめぐらし、その内側に築地や堀塀を設けていた。



伊藤音五郎による松木邸見取図（一町二反）

（『大野誌』より）

松木邸は明治11年の襲撃のときに焼失してしまい、当時をしのばせるものは何も残っていないが、松木邸内の墓地の位置と表門跡の真土公民館によりだいたいの場所がわかる。

明治13年に松木邸の跡地に松木家供養のため松木堂が建てられ、昭和3年には土地の人々によって50年祭が行なわれた。現在の真土公民館は、この松木堂を建て直したものである。

## ○ 怨親を超えた人々の碑

真土公民館に建てられている。昭和41年7月に京浜協同劇団が平塚の市民センターホールで「真土村一揆」を上演したことがきっかけになり事件中心者の子孫等60余名から記念碑建設の話がもちあがり作られた。碑には戸川貞雄前市長の筆になる“怨親を超

えた人々の碑”という碑名が刻まれている。

## 碑文

明治十一年十月二十六日大住郡新土村に起きた事件は新日本の伸びゆく過程に生じた大きな悲劇であった。事件以来すでに九十年余の歳月が流れ去った。ここに有志相はかり事件に関連をもつ諸霊のために供養をおこない恩怨双忘の碑をたてて久遠の平安を祈ったのである。

昭和四十一年十月二十六日

戸川貞雄撰並書

## ○野村県令報恩の碑

明治11年11月26日に質置主達は松木邸を襲撃し、彼らは全員捕えられた。それに対し近隣の村々から減刑嘆願運動がまき起った。この運動に動かされるかたちで、当時の神奈川県令野村靖は中央政府に「真土事件顛末上申書」を提出し、質置主達の減刑に努力をした。これらの動

伊藤氏之碑（真土、伊藤銀蔵氏宅地内）  
伊藤氏名兵左衛門初称梅言天保十年己亥年十月生性剛直俠氣有胆略也弱冠襲父乃為木匠処世以繼紹焉文久三年娶市川与次兵衛次女辰生三男二女然老後專從事于農業案余竊矣往年嘗遇明治維新革命也天下騷然乱如麻所在或為漂容所襲擊或為浮浪所掠奪人常不能安加之稼穡為凶歉故国用頓委經濟漸羸庶民存訴憊焉此余弊終稔也即兵左等數十輩与一素封家亦有紛釀葛藤而終多勢酷至極悲壯則忽警吏取下獄而重刑遂成矣時県令正二位勲一等子爵野村靖閣下熟按世之趨勢而尽遂檢察精究確拋審其真証具以開事状也因彼等得浴予特典服役數歲脫鬼籍也矣誠此事明治九年乃至同二十年是蓋閣下之明也宜哉各九如所以至不絶宗祀者嗚呼尊侯子閣下之仁惠矣乎如斯人大頌閣下之德予欲其顛末故略就由来摘其梗概云爾

大正五年八月

下野

文郷敬撰并書

（『大野誌』より）

きにより横浜地方裁判所の判決の後、罪一等を減じられることになった

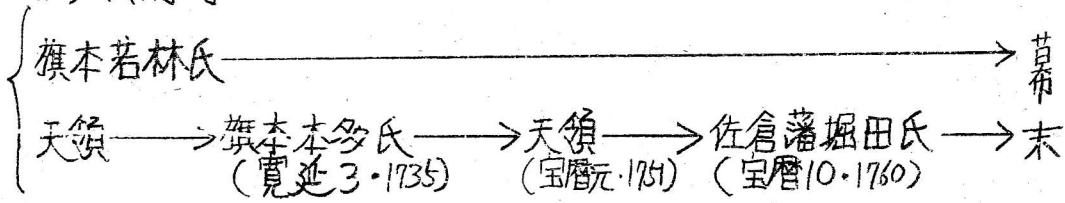
襲撃者のなかの1人、伊東兵左衛門は徴役10年に恕せられたが、

減刑のために労をとってくれた野村県令に対して深く感謝し、  
 宅地内に「橘香院叙忠靖欲庵居士」の石を建て、大正5年野村  
 靖の没後10年祭にあたり県令の徳を刻みつけた碑をその横に建  
 てた。現在、伊藤貴久氏宅にある。

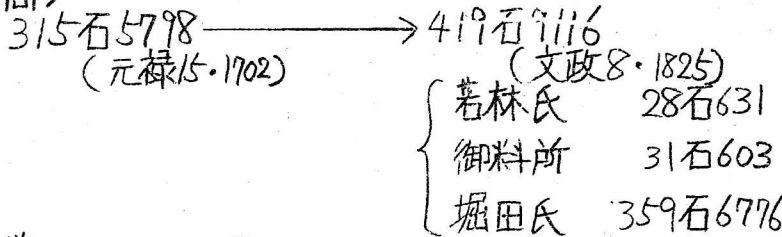
○ 新土村について

永知4年(1378)日奉広重が今里を浄光明寺に寄附。応永元  
 年(1394)玄珍、同所をまた同寺に寄附。後北条氏時代、「中  
 郡新土今里」を関弥次郎が知行した。

<知行>  
 江戸入府時



<村高>



<村数> 103戸

<耕作地>

水田 9割 土壤~砂地  
 畑 8割 畑地を利用した薩摩芋の栽培が盛んだった。

※ 明治初年に名主松木長右衛門の手により新土から真土に改  
 称。

(『新編相模国風土記稿』 『平塚市史・近世1』より)

## ○ 海軍火薬廠跡

直接、真土事件と関係はしないが、明治以来終戦時まで大野村（八幡・四宮・真土・中原上宿・中原下宿・南原）の農家の2男・3男などに職を与えるなど多大の影響を及ぼした。

明治38年（1905）9月に平塚町・大野村にわたる御料地約38万坪に英国系資本をもって日本爆発物製造会社が設立され、翌年11月に完成し海軍用無煙火薬が製造された。大正8年（1919）3月より海軍の買収によって海軍火薬廠となる。昭和14年（1939）8月、海軍火薬本廠。昭和16年（1941）4月、第2火薬廠と名を変え終戦時まで生産を続けた。昭和15年には、真土の現大野中学校地に約3万坪の土地を得て、廠内の火薬庫を移している。

	大正頃	昭和4	昭和19
生産規模 (年間)	1200トン	3500トン	7000トン
人員	600名	2000名	8500名 (勤員学徒などを誌)

## ○ 真土大塚山古墳

現日産車体寮にあった古墳だが、現在はその面影をまったくとめていない。戦前の発掘で三角縁神兽鏡が出土し、当時の大和政権の勢力を表わすひとつの例と考えられている同鏡の東限として知られている。なお同鏡は現在、東京国立博物館に所蔵されている。